

多数は吾等の力である!!

資本主義の社会は、資本家の階級と労働者の階級に分かれて居る。資本家は階級として居る。何時でも相反して居る。資本家は労働者が居らねば立行かぬ、労働者は資本家が無ければ立行かぬ。資本家と労働者の間には、離れられぬ関係がある。双方の利害は一致して居るといふ事がある。なるほど今の世の中では、労働者と資本家の間には離れられぬ関係がある。それは丁度、甲の人の右の足の脚が、乙の人の左の脚が一本の脚で纏られて居るやうなものだ。一方の人が勝手に片方だけ走れば、一方の人は引ずられてゆく外はない。資本家が利益をよそよそとすればするほど、何々労働者の生活はかきめになる。労働階級の利害と資本家階級の利害とは、何時でも、そして永久に相反して居る。資本主義の世の中では、資本と労働の二つの階級の闘ひである。吾々が勝たなければ必ず敵が勝つ。

資本家には金がある。吾々には金は無い。資本家には保護して呉れるものが附いて居る。吾々には相殺をする會社すらも借して貰へ無い。しかし吾々が多数である。多数は力である。多数は力である。離れくち多数でも、離れくちでは力にはならぬ。多数が團結した時に、初めて力になる。

労働者の團結が即ち組合だ。組合の無い労働者は、力の無い労働者だ。力の無い労働者は、資本家の如識である。然しいくら組合に加入してゐても、三五人づゝ、思ひくゝの組合に加入してゐたのでは、何の力にもならぬ。吾々は先づ第一に、この會社の工場に働いてゐる労働者全體の一大組合を造らねばならぬ。それには各工場々々の労働者から、五六名づゝ、工場委員を選挙し、この委員が續まつて相殺すればよい。

第三には、この會社だけの組合が出来たら、他の鐵工や機械工の組合と聯合して、共同の行動を取らねばならぬ。これこそ吾々には、初めてほんごの力が出来る。吾々には最早や恐る可きものはない。勝利は吾々のものである。

今度の争議に勝つても、吾々は必ず之を會社に組合を組織しなればならぬ。争議者の生活は、吾々を脅かされて居る。吾々の生活は、本斷の闘ひである。だから何時でも團の準備が出来てなければならぬ。

同志よ、吾々は今度の争議によつて、團結の必要を知つた。吾々の力は唯だ團結である。いざ吾々の團結を組織しやう! この争議に勝つたならば、永久に保つ爲めに! この争議に敗つたならば、近い未來に勝利を得る爲めに!

労働者團結せよ!!

三月五日(安産院) 博多 工友會